

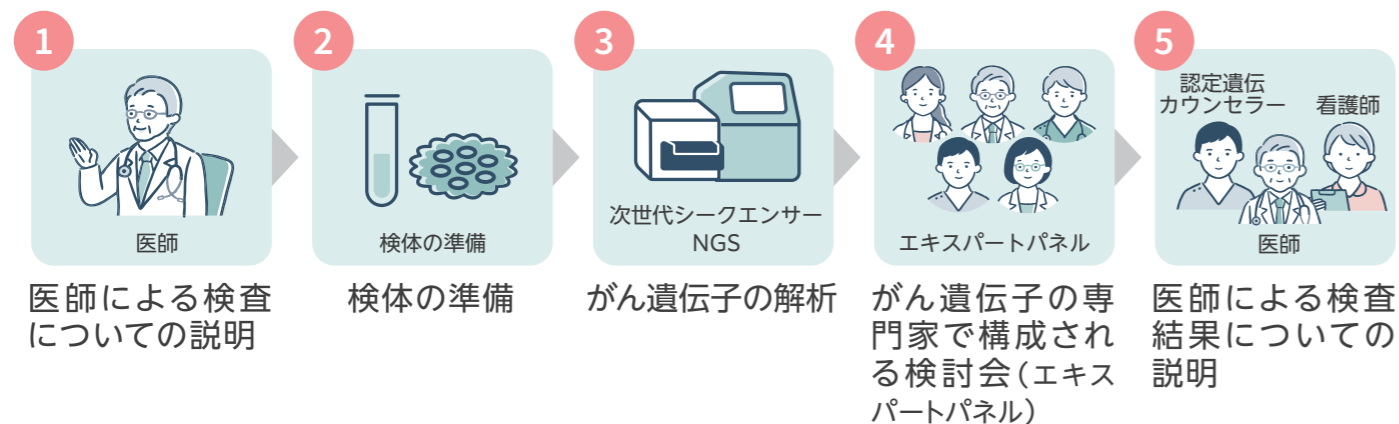
保険診療の対象となる方

- 原発不明がん、もしくは希少がんの方
- 固形がんで標準治療が終了または終了見込みの方
- 2か月後(がん遺伝子パネル検査後)に新たながん治療を受けられる可能性が高いと主治医が判断した方

ただし、現在入院中の患者さんは本検査を受けることができません。退院後に外来で検査を受けていただきます。

※ご自身が対象となるかについては、主治医にご相談ください。

がん遺伝子検査の流れ



パネル検査の種類にもよりますが、検査し、結果説明まで6～8週間程度かかることが多いとされます。

注意点

1. がん遺伝子パネル検査を実施しても、がんの診断や治療に有用な情報が何も得られない可能性があります。
2. がん遺伝子パネル検査は、治療効果が期待できる治療薬の情報を提供しますが、その治療薬の治療効果を保証するものではありません。
3. がん遺伝子パネル検査で、がん細胞で起こっている遺伝子変異に対して効果が期待される薬剤が見つかったとしても、現状ではそのがんに対して承認されていない場合、その薬剤の入手ができない、あるいは投与ができない可能性があります。また投与できる場合の治療費は自己負担となります。

島根大学医学部附属病院 がんゲノム医療外来

電話 ▶ 0853-20-2124 (腫瘍内科外来内)

お問い合わせ時間 ▶ 平日(月～金)9時～16時

ホームページ



2024年3月作成 ver.1

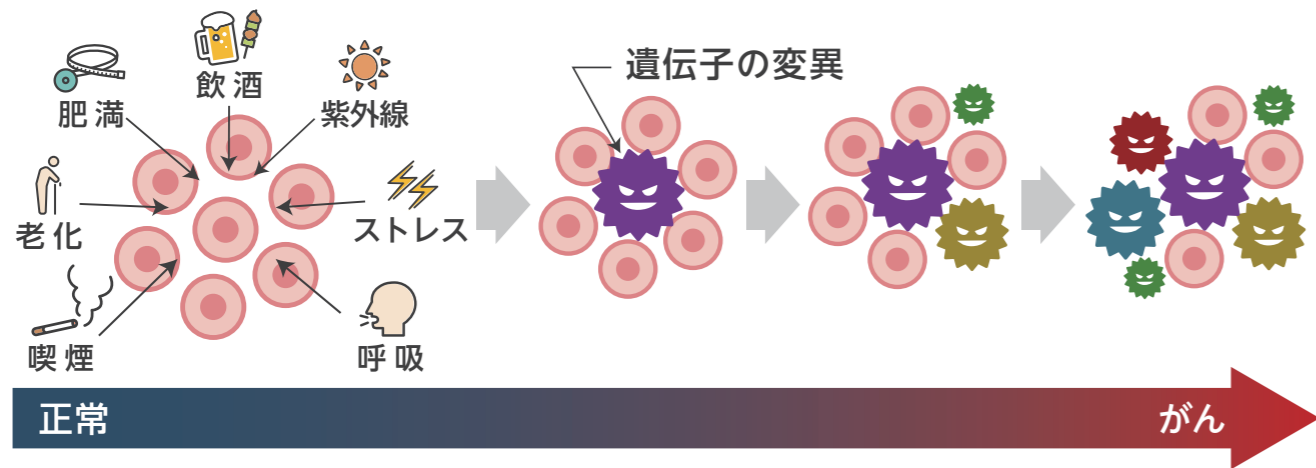
がんゲノム医療のご案内

がん遺伝子パネル検査をお考えの方へ

島根大学医学部附属病院
臨床遺伝・ゲノム医療センター がんゲノム医療部門

がんの発生

- 「がん」は、老化や肥満、タバコ、生活習慣などで、遺伝子に変異を起こすことで発生します。1つの遺伝子変異ががんを起こすのではなく、図のように、様々な遺伝子の変異が積みかさなることでがん細胞となっていく。



- そして近年の研究において、その変異はがんの種類で全く同じ変異をおこしているわけではなく、患者さんごとに異なることが分かってきました。

そこで
がんゲノム医療!

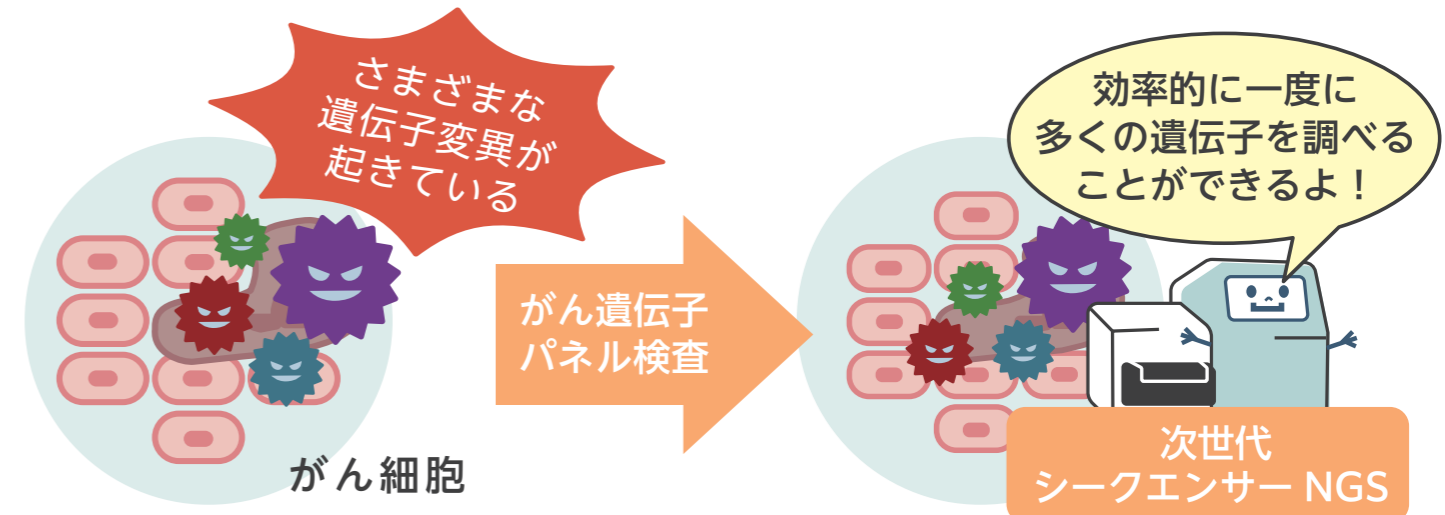
がんゲノム医療とは

- 「がんゲノム医療」とは、一人ひとりのがんの個性(原因)を明らかにし、患者さんにより適した治療薬のご提供につなげる医療です。遺伝子レベルでご自身のがんを知ることは、治療薬などの治療方針の選択に役立ちます。
- これまでは、がんの種類ごとに推奨される標準治療が決まっていた。がんゲノム医療では、がんの性質、遺伝子の変異にあった治療が行われます。その人の遺伝情報やがん細胞の遺伝子の特徴がわかることで、よりその患者さんに効果的な治療方法が選択できます(個別医療)。



がん遺伝子パネル検査とは

- がんゲノム医療では遺伝子の変異を調べるため、「がん遺伝子パネル検査」を行います。この検査は患者さんの組織や血液を用いて、1回の検査で数十から数百種類の遺伝子を調べる検査です。1回で多くの遺伝子を調べることができるため、自分のがんにあった治療薬が見つかることがあります。解析結果より、治療に役立つ遺伝子の変異なのか、適合する薬があるかどうかを判断していきます。



検査の結果例



医療保険に適用する治療薬がある遺伝子の変異が見つかった

- ・ 保険診療
- ・ 例) NTRK3 融合遺伝子→エヌトレチニブ (ロズリートレク®)



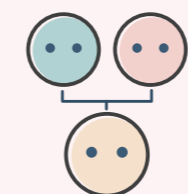
進行中の治験に該当する遺伝子の変異が見つかった

- ・ 当院で治験が実施可能
- ・ 当院では治験が実施不可能だが、東京のA病院では可能



保険適用でないが、海外で承認されている治療薬がある遺伝子の変異が見つかった

- ・ 自由診療
- ・ 患者申出療養制度の利用



がんに関与している遺伝子変異が見つかったが、その変異は生まれつきのものであることが疑われた。

- ・ 遺伝性腫瘍
- ・ その他の遺伝性疾患